

mcAccess e による「災害時緊急通報システム」を構築。 天然ガス供給停止情報を大口顧客に即座に通報します。

災害時、mcAccess e によるテレコントロール機能 (ボタン1つで信号を送る) で緊急通報。
大切なライフラインである都市ガスの安定供給を維持し、暮らしや産業を守ります。



●岡山ガス築港工場。LNGの受入から、都市ガスの製造、送出までを行います。敷地内にはプラント設備や管理棟、コントロールセンターなどがあります。

インタビュー

「mcAccess e は災害時の信頼性が高く、高機能なシステムを低いランニングコストで利用できます」

岡山ガス株式会社は、県内に3社ある都市ガス会社のひとつで、岡山市を中心に倉敷市、赤磐市などへガスを供給しています。都市ガスは、LNG (液化天然ガス) を基地内プラントにおいて調整し製造されますが、同社ではこの一連の工程を、築港工場と倉敷営業所 (水島のLNG基地より天然ガスを受入) の2つの拠点で行っています。



●エネルギー開発部 統括産業エネルギーグループ 課長の水田隆雄さん。

近年、大規模な地震災害が多発し、LNG基地においても災害時の危機管理の重要性が叫ばれる中で、同社では2008年8月、mcAccess e を導入し、水島基地と築港工場、大口顧客6社をつなぐ「災害時緊急通報システム」を構築しました。水島コンビナート内にある水島基地の場合、60カイン以上 (震度6強程度) の地震が起きると、LNG供給を停止します。その場合、**工業用等の大口需要のお客様に「災害時緊急通報システム」によって即座に通報し、使用を控えていただくことにより、エリア全体のガス供給の安定性が確保できますので、この緊急通報は非常に重要です。**

システム導入に際しては、様々な比較、検討を重ねた結果、mcAccess e を利用して、ボタンひとつで信号を送り (テレコントロール機能)、大口顧客に赤色ランプの点滅とブザーで一斉に通報するという極めてシンプルな方式としました。「mcAccess e は過去の大きな地震においても実績があります。中継局が複数あり、1つの基地が使用不可能に陥った場合、他で補完できることも信頼性の評価のひとつとなりました。また、ボタンを押すことで信号を送るデータ通信を利用する契約なので、結果的にランニングコストを低く抑えることができました」。

2008年9月には、はじめて「災害時緊急通報システム」を使って防災訓練を行いました。今後こうした機会に操作に慣れて、防災以外にも業務の中での新たな応用展開を考え、使い方を工夫していきます。同システムは、万が一に備え、大切なライフラインである都市ガスの安定供給を守ってくれる頼もしい見張り番、と言えるでしょう。



●築港工場の「災害時緊急通報システム」。水島基地から倉敷営業所への天然ガス供給がストップすると、赤ランプの点滅とブザーで緊急通報します。



●大口顧客に設置された「災害時緊急通報システム」。

Point

●高機能のシステムを安価に利用可能

テレコントロールなど高機能なシステムを、「ライト利用」契約により低いランニングコストで利用できます。利用頻度の少ない (通信時間平均一局当たり5分/月以下) データ通信を行う場合、月額利用料が安価に設定されています。

●万ーの場合は、複数の中継局で相互に補完

1つの中継局が使用不可能になっても、他の中継局でバックアップします。

●災害時の高い信頼性と実績

阪神・淡路大震災、岩手・宮城内陸地震など、様々な震災現場でも、安定した通信を確保しています。